

達人 Professional vol.33

2023年12月

Contents

巻頭言

ニューノーマル時代を
勝ち抜くために

NEWS〈表彰おめでとうございます〉

TOPICS/慈愛会の達人たち

慈愛会フィロソフィ

在宅医療リレーエッセー/人事情報

JIAIKAI2040

いまこそ
未来へつなぐ
創造力を

第4回 慈愛会学会学術集会

令和6年 7月27日 土

大会長 常盤 光弘 (今村総合病院院長)

会場 かごしま県民交流センター大ホール

演題募集期間

令和5年11月1日～令和6年2月29日

慈愛会学会学術集会

ポスター決定

〈最優秀賞〉

今村総合病院

植村 靖子 事務員

ニューノーマル時代に生き残るために を勝ち抜く

公益財団法人慈愛会 理事長 今村 英仁



新型コロナ禍もようやく落ち着いてきました。ただ、現場ではまだまだ緊張を強いられています。一方国は、新型コロナはインフルエンザと同等になったとしてコロナ補助金は2024年3月で終了となります。そして、これからのポストコロナ時代は、コロナ以前の平時の時代には後戻りしません。少子高齢化も加速し、出生数は年間100万人を切った後の激減が続き、2023年度は70万人台となりました。1940年代約270万人のピーク出生数から4分の1程度です。国民の考え方も、健康不安があればすぐに医療機関に掛かる時代から、すぐには医療機関に掛からないニューノーマル時代に変化しました。

このニューノーマル時代に生き残るを勝ち抜くためには、これに合わせた構造改革が必要です。

ニューノーマル時代の到来

今回のトリプル改定からこれからの法人の方針について考えてみます。

・高齢者救急問題の解決

多くの高齢者が急性期病院に搬送されてきますが、これからは、検査が終了し、1) 誤嚥性肺炎、2) 尿路感染症、3) 骨折と診断された場合は速やかに、地域包括ケア病棟や回復期病棟へ“下り搬送”を行うことが求められます。そうすると益々、病・病連携や病・診連携に力を入れなければなりません。さらに、下り搬送先から自宅に戻った際の“在宅支援”までフォローすることが大事です。

・専門医療の専門性をさらに高める努力

また、高齢者救急については、益々、急性期病院から在宅療養支援病院や地域密着型の慢性期病院で対応することが求められてきます。幅広く在宅支援を行う在宅療養支援病院の強化が必須です。急性期病院では徐々に（もしかすると急激に）救急患者さんが減少する中で、どのような対策が必要でしょうか？ その一つが、得意な専門領域のさらなる専門性の追求です。幸い、慈愛会には、鹿児島県で十分に戦える専門領域をいくつも持っています。それらの専門領域の強化に“ヒト・モノ・カネ”の投資を加速する必要があります。

・精神科領域における地域共生社会の実現

精神科医療の専門性を高める一方、安心して地域で暮らし続けることができるための支援を提供できる力の強化が求められます。そして、地域共生社会の実現を目指すほど、精神障害以外の障害についても対応できる力が求められるようです。改めて、慈愛会における障害者サービスのあり方を、離島精神科医療のあり方も含めて再考する必要があります。

さて、今年度はどこの病院も厳しい状況に陥っており、当法人もここしばらくのピンチを迎えています。このピンチにどう立ち向かうか？ 理事長の心情を吐露して巻頭言とします。

ピンチをチャンスと出来るか？

ーピンチはピンチだ！ チャンスに出来るかは分からない！ ただ、何かをしなければチャンスは訪れない！

このピンチをピンチと捉えて逃げない！ 必ず解決策はあるはずだ！ 皆と一緒に必死で考えよう！

試行錯誤で良いから、対策を立てて、解決に臨もう！

もし、失敗したら、次の対策に取り掛かろう！ 正解に辿り着くまで繰り返そう！

少なくとも、慈愛会の先達はそうして、この法人をここまで引っ張ってくれた！

今こそ、慈愛会マインドの出番だ！

巻頭言余話ー「勝ち抜く」についてー

理事長の本心は、どうしたら「生き残れるか？」です。

ただ、当法人理事の田中滋先生とお話をしたら、「生き残り」ではなく、「勝ち抜かなければならない」と諭されました。

後ろ向きの「生き残り」ではなくて、前向きの「勝ち抜く」ことが非常に大事で、

特に、慈愛会スタッフには「勝ち抜く」ことを伝えるべき、とのことでした。

今回の巻頭言はこの会話を踏まえて記載しました。

表彰おめでとうございます

鹿児島県民表彰

野村 秀洋 いづろ今村病院名誉院長
介護老人保健施設愛と結の街施設長

鹿児島県民の福祉や地域社会の発展に貢献し、特に顕著な功績があった個人や団体を称える「県民表彰」の2023年度保健福祉部門受賞者に、野村秀洋 いづろ今村病院名誉院長が選ばれました。

「思いがけず立派な表彰を受けることになり驚きました」という野村名誉院長に、県が功績として挙げた「県内の若手医師確保・育成」について振り返っていただきました。



現行の初期臨床研修制度がスタートした 2004 年に、今村病院（現いづろ今村病院）を基幹型臨床研修病院とする「じあいプログラム※」を立ち上げ、若手医師の養成を開始しました。県の民間病院として初の基幹型病院認定でした。一つの分野だけでなく様々な分野の基礎を学んで、幅広い知識を活かして診療に臨めるようになる、それが非常に重要だと理解していましたが、当時鹿児島にはそういう制度が整っていませんでした。研修内容は当然のこと、研修成果をしっかりと評価する形式が肝要で、研修制度を一からトータルでつくり上げるのは容易ではありませんでした。

制度をつかって、いかに研修医を獲得するか、そこには指導医のレベルの高さが不可欠です。当時の今村病院分院（現今村総合病院）の先生方にもご理解と多くのご協力をいただきました。優秀な指導医を選び、説得して、指導医が鹿児島に残ってくれるためのシステムづくりにも心を砕きました。他県に劣らない、いや、全国レベルの体制でなくては研修先には選ばれない、そう思って鹿児島他の基幹病院も一緒にレベルアップに力を入れました。

そうして走り出した研修制度でしたが、県全体では1年目臨床研修医数が低迷して、県外流出に歯止めがかからない。2004年の105人から2009年には54人にまで落ち込みました。医師会でも随分と議論しました。「これでは鹿児島に残る医師がいなくなる」と。

その危機感から、県と県医師会、鹿児島大学、県内の基幹病院が一体となって研修医確保に取り組む「鹿児島県初期臨床研修連絡協議会」を2009年に発足させました。この「オー

ル鹿児島」体制で研修医獲得に本腰を入れ、ここ数年はまた100人前後を維持しています。協議会の努力がこの数字に表れたと自負しています。

鹿児島の研修医制度をつくり、鹿児島で多くの若い医師が育ち活躍する、それが一番の目標でしたから、いまは大きな達成感を得ております。

※じあいプログラムは2013年度に終了。2010年スタートした今村病院分院の「錦江湾プログラム」に一本化され、現在に至ります。

主な経歴

1970(昭和45)年 鹿児島大学医学部附属病院第一外科入局
1988(昭和63)年 今村病院(現いづろ今村病院)外科部長
1990(平成2)年 今村病院(現いづろ今村病院)院長
2014(平成26)年 今村病院(現いづろ今村病院)名誉院長(現在)
2018(平成30)年 介護老人保健施設愛と結の街施設長(現在)

1996(平成8)年 鹿児島市医師会理事 ~2002年
2004(平成16)年 鹿児島県医師会常任理事 ~2012年
2012(平成24)年 鹿児島県医師会副会長 ~2022年
2022(令和4)年 鹿児島県医師会監事(現在)

1991(平成3)年 鹿児島県国民健康保険診療報酬審査委員会委員
2007(平成19)年 鹿児島県国民健康保険診療報酬審査委員会会長
2019(令和元)年 鹿児島県国民健康保険診療報酬審査委員会委員(現在)

11月2日に県議会本会議場で行われた表彰式、受賞者インタビューが県政広報番組「#かごしま」で公開されています。



JSPFAD 5000検体達成記念表彰

宇都宮 與 今村総合病院名誉院長



第9回日本 HTLV-1 学会学術集会（2023年11月10日-12日、京都市）で、今村総合病院の宇都宮與名誉院長 兼 臨床研究センター長が、HTLV-1 感染者のコホート観察研究（JSPFAD）における検体登録 5000 件達成の功績を称えられ、日本 HTLV-1 学会 渡邊俊樹理事長より表彰されました。宇都宮名誉院長は「全国の登録数約 2 万検体のうち約 1/4 を当院で担っています。これらの検体を用いて HTLV-1 ウイルスに関する基礎研究や ATL の病態解明の解析を中心に 50 以上の論文が完成していますが、これらの業績にも大きな貢献をしています。研究が進展し HTLV-1 感染者からの ATL 発症を予防することができるようになることを希望し、引き続き検体登録の継続を目指します」と話しています。

国民健康保険関係功績者 厚生労働大臣表彰

鎌田 哲郎 いづろ今村病院名誉院長



「2023 年度 国民健康保険関係功績者厚生労働大臣表彰」受賞者に、いづろ今村病院の鎌田哲郎名誉院長 兼 慈愛会糖尿病センター長が選ばれました。

厚生労働省は、国民健康保険事業に対する功績が顕著であって、他の模範と認められる国民健康保険関係役員職員に対し、その功績を称えるとともに、国民健康保険事業の発展に寄与することを目的として、厚生労働大臣表彰を行っています。

鎌田名誉院長は、鹿児島県国民健康保険診療報酬審査委員の委員として長年にわたって精勤され、診療報酬の審査等、国民健康保険制度の公平・公正な運営に尽力した功績を認められ、今回の大臣表彰受賞となりました。

病棟夏祭り(10/4) 徳之島病院

作業療法士が創意工夫したゲームを患者さんに楽しんでいただきました。あちこちで歓喜の声に拍手喝采。ゲーム参加賞の駄菓子に加えジュースやかき氷もふるまわれ、普段と違う“おやつ”に笑顔が弾けて大満足の様子でした。最後は輪になって盆踊り♪音楽に合わせて、終始生き生きとした表情で楽しませていました。人員不足の中、他部署からの応援をもらい、病棟スタッフもとても充実した時間を過ごすことができ、大成功の夏祭りでした。

徳之島病院 介護福祉士 東郷 かね子



第11回健康まつり(10/14)

4年ぶりの開催で、スタッフも少し緊張気味で当日を迎えました。定番の無料測定(血圧、血糖値、骨密度)や塩分摂取量検査などの健康チェックコーナーが賑わいを見せ、「自分の体を見直すいい機会だった」とのご感想をいただきました。外会場ではヨーヨー釣りやストラックアウトなどのお楽しみコーナー、雑貨ブースと、小規模ながら盛りだくさんの催しを楽しんでいただきました。来年はよりパワーアップした健康まつりが開催できればと思っています。

いづろ今村病院 総務課 山名 舞子



今村総合病院

第2回かもいけ健康まつり(10/21)

「つながる地域、つなげる安心」をテーマに、包括連携協定を結んでいる地元・鴨池校区コミュニティ協議会との共催で4年ぶりに開催しました。相談ブース、健康チェックブース、体験ブース、ミニ講演、ミニコンサートのほか、出店飲食ブースも充実し大勢のご来場をいただきました。今年から、永く地域活動に尽力されてきた方々を称える「鴨池コミュニティ慈愛アワード」を創設し、4人の皆さんへの表彰式を行いました。今後も地域と手を携えて健康な街づくりに貢献していければと思います。

今村総合病院 広報室 栗ヶ窪 みゆき



第1回介護マルシェ(11/19)

愛と結の街

愛と結の街グループの通所部門が中心となって、初めて介護に特化したイベントを開催しました。4年前まで谷山病院と合同の秋祭りなど開催してきましたが、久しぶりの地域向けイベントとなりました。介護・認知症・言葉と飲み込み相談、福祉用具展示、介護体験など様々なブース、屋外にはキッチンカーもきて、大変賑わいました。コーヒーやアロマの香りに包まれて、ご来場者もスタッフも笑顔一杯の楽しい活気ある時間が流れていました。「老健に初めて入って、中を見ることができて安心した」「全体の雰囲気もよいですね」と嬉しいお声も頂きました。今後も住みやすい地域づくりに貢献していきたいと思っています。

デイサービスセンターあしたの風 介護福祉士 前屋敷 さよ子



地域行事への参加

徳之島病院

第40回徳之島町どんどん祭り(10/29)

23団体900人余の踊り連が参加して4年ぶりに開催され、徳之島病院は「パレード」に参加しました。総勢30名がハロウィンをテーマに個性豊かな衣装で通りを練り歩きました。沿道は多くの人であふれ、コロナ緩和が進み日常生活が戻りつつあることを実感しました。みんなで笑い楽しい時間を共有できた今回の祭り。



明るい兆しを見せ始めたこの状況を前向きに捉え、職員一同、更なる努力を重ねて頑張っていくと共に、この祭りがコロナ後の新たなスタートとなりますように…と願うことでした。日々笑顔を忘れず…マスクの中でも笑顔を！

徳之島病院 調理員 梅山 朋美

第72回おはら祭夜まつり(11/2) 慈愛会

慈愛会踊り連は昨年まで3年間、コロナ対応のため参加を見送っており、満を持して今年「復活」を果たしました。今村総合病院、いづろ今村病院、谷山病院、愛と結の街の総勢100名余が、おはら節 慈愛会オリジナルバージョンなど3つの踊りを披露しました。





かごしま国体・かごしま大会のサポート活動

鹿児島で盛会のうちに幕を閉じた“燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会”(特別国民体育大会・特別全国障害者スポーツ大会)。

鹿児島県選手団の帯同理学療法士(PT)、理学療法士協会コンディショニングサポート、救護班担当医師等、さまざまな形で大会を支えた慈愛会の皆さんを紹介します。国体・大会双方でボランティア活動に従事した慈愛会本部中重敬子顧問の寄稿文も併せてご紹介します。

今村総合病院

■リハビリテーション科

堂園 浩一朗 医師

(大会ボウリング競技 10/28)



■スポーツ整形外科

福島 佳織 医師

(国体柔道競技 10/14-16)

■リハビリテーション部

(写真左から)

西牟田 亮 PT

(国体卓球競技 10/12-16)

鮫島 智志 PT

(国体剣道競技 10/8-10)

橋口 由美子 PT

(国体なぎなた競技 10/14-16)

岡 弥津希 PT

(国体高校硬式野球競技 10/9-11)

吉田 研吾 PT

(国体高校硬式野球競技 10/9-11)

轟原 与織 PT

(国体高校硬式野球競技 10/9-11)

とても貴重な経験をさせていただきました。今後のスポーツ障害予防やトレーナー活動、臨床に活かしていきたいです



鹿児島中央看護専門学校

3年課程看護科1年生45人(大会/バレーボール競技10/28-29)

聴覚障害・知的障害の各競技に参加した選手団を、大会前の公式練習も合わせて4日間サポートしました。担当した各県の応援旗を作って声援を送り、交流も深めました。

「最初は不安だったが、手話での会話など貴重な経験だった」「パワーをたくさん頂いた」などの感想がきかれ、学生たちにとって大変意義深いボランティア活動となりました。



サポート活動中の学生たち
(白とピンクのベスト)

担当県の応援旗も作りました



～蘇る感動 私の看護体験～

慈愛会本部 理事長室顧問 中重 敬子 看護師

(国体成年女子バスケットボール競技 10/13)

(大会サッカー競技 10/28)

臨床での現役看護師を離れて10年過ぎた今回の活動は、責任を果たせるのか不安の中での挑戦でした。救護班としてユニフォームを着て会場に立つと気持ちが引き締まり、少し大げさですが「自覚と責任」という言葉がのしかかりました。

実際の救護は、熱中症の症状、手をスパイクで踏まれて負傷、対戦相手とぶつかり肋骨打撲、等の処置にあたりました。手当を行い声掛けすることで、不安な表情が徐々に穏やかに変化し「よくなりました。ありがとうございました」と言われ、元気になって帰られる姿を見届けると、看護の基本「不安の緩和」が出来た安堵と、久しぶりの看護の心が蘇り、感動させていただいたことに感謝の気持ちでいっぱいでした。

急性期看護の経験が長く、多くの救命処置にあたってきた自分ではありますが、いざという時に役に立つのか不安ではありますが、仕事以外の時間帯には、咄嗟の救命に備えて常に簡易な救命道具やSPO2測定器を身に付けて行動しています。生涯看護師として活動したいという意識もありますが、社会に貢献したい気持ちがあるからです。

今回の活動は、「私も看護師」と達成感を得られたことが何よりだったと思います。



戴灯式(11/6)

鹿児島中央看護専門学校

川商ホールで挙行し、今春入学した21期生45名が式に臨みました。鹿児島県看護協会からのご来賓、慈愛会各病院施設の幹部が見守る中、学生たちは一人ひとりナイチンゲール像から蝋燭の灯火を戴き、「慈愛のこころ」「責任感」「豊かな感性」「心のこもった看護」「勇往邁進」という5つの誓いの言葉を唱和しました。21期生たちはこれから実習が本格化し、看護師になるための学びを一層深めていきます。式典会場では当校 今村節子顧問の「第49回フローレンス・ナイチンゲール記章」受章を記念して、功績を紹介する展示も行いました。



認知症啓発の達人

奄美病院 認知症疾患医療センター
精神保健福祉士 森越 志保 さん



私が認知症疾患医療センターの担当になったのは、2021年4月。コロナ禍真っ只中で、これまで開催していた研修会やイベントはすべて中止。受診調整に待機期間を設けるなど、受診に繋げることも難しい状況でした。

せめて病院内だけでも認知症啓発ができないか…。そんな思いから、2022年、展示企画を行いました。認知症支援のシンボルカラー・オレンジ色のメッセージカードを集めて、認知症サポーターキャラバンのマスクット・ロバ隊長のシルエットを完成させよう！という企画です。可愛らしく仕上がったロバ隊長がご来院の方々にも職員にも好評でした。

「せっかくだから圏域内の地域包括支援センターも一緒にやってみたら！」と地域包括支援センターから提案があり、今年度は圏域内に離島を有する奄美病院、せいざん病院（熊毛）、谷山病院（鹿児島）認知症疾患医療センター、地域包括支援センターと合同で『#島から島へ えがおでつながる オレンジライン』をテーマに【離島企画しまロバ隊】として、各地域で展示企画を行いました。

「メッセージを書いて・読んで、認知症理解のきっかけになったり、支援の輪が広がったりするといいな」という思いから、“自分が認知症になったらしてもらいたいこと、自分だったら認知症の人にこんなことができる”をメッセージテーマにして、各地域の展示をSNSや地元のラジオ・新聞で情報を発信しました。

各地域から「認知症になっても変わらず接してほしい」「笑う時間を共有してほしい」「おしゃれをしたい」「ずっと一緒にいるよ」などのメッセージが寄せられており、“認知症になっても、大切な一人の人なんだ”ということを再認識しました。

社会資源が少ない・高齢化・人材不足・交通手段がない等、離島には多くの課題がありますが、認知症に限らず、誰もが支え合える島になったらいいなと感じました。

「離れていても同じ企画に取り組んでいることに一体感を感じ、わくわくした！」「地域の方々の思いをたくさん聞くことができた」等、今回参加した担当者からもやって良かったとの感想が聞かれ、来年も企画継続決定！

皆さんも、メッセージを見て・書いて、認知症について考えてみませんか？



しまロバ隊ロゴマーク



谷山病院での展示



SHIMAROBATAI
「しまロバ隊」Instagram



Instagramで紹介した各参加団体による取り組みの様子。たくさんの想いが詰まった、温かい企画になりました



慈愛会フィロソフィの浸透に向けて【鹿児島中央看護専門学校取り組み】

鹿児島中央看護専門学校では、2015年「慈愛会フィロソフィ」が作成されてから、会議の冒頭に、職員が交代で1項目を読み、自身の行動を振り返ったり、最近の自分の心情などを語ったりし、意見交換を行う取り組みを継続しています。その中で職員がよく選択する項目がいくつかあります。その一つが「亀の一步で努力を積み重ねる」です。教育の現場では、結果がすぐには出ません。しかし、努力を積み重ねたその先に必ずその成果はあるのだと信じ、日々努力することの大切さを語り合うとともに、お互いの教育観を語る場にもなっています。「反省ある人生を送る」もそのうちの一つです。学生と向き合う中で自分自身に傲り高ぶりがなく、忙しい中でも自分自身を振り返ることの大切さを確認し合っています。これからも「慈愛会フィロソフィ」を職員間の「語り合う場」として今後も取り組んでいきたいです。



鹿児島中央看護専門学校 教務主任 櫻美 尚美

「感謝の気持ちを持つ」



フィロソフィは人が生きていくうえで大切にしなければならないこと、一人の職業人としてのあるべき姿が書かれています。看護学校でもフィロソフィ学習会を行い、それぞれのエピソードや気づきについて意見交換を行います。私も日々学生さんや周囲の方とのかかわりの中で悩んだ時や自分らしくいられない時は、フィロソフィを開き、原点に立ち戻ります。「感謝の気持ちを持つ」という言葉は、ここまで歩んできた私を支えてくださった方々の顔が浮かびます。今の私があるのは、これまで出会ってきた方々のお陰であり、他のどの言葉もその時々私に考え方のヒントや活力を与えてくれるものです。これからも進む方向に迷った時には、フィロソフィを開き、読み解きながら自分の役割を果たしていきたいと思っています。

鹿児島中央看護専門学校 専任教員 石牟礼 ゆかり

冊子抜粋 第26項 感謝の気持ちを持つ

職場に人の和がないと、患者様・利用者様に満足していただけるケアは提供できません。なぜなら医療や介護にはそれに携わる人の心が反映されているからです。自分さえ良ければという利己的な考え方で、職場に和を創っていくことはできません。

私達が今日あること、そして存分に働けることは、患者様・利用者様はもちろん、職場の仲間、家族といった周囲の多くの人々のお陰です。決して自分達だけでここまで来られたわけではありません。

このことを忘れず、常に周囲への感謝の気持ちを持ち、お互いに信じ合える関係となって仕事を進めていくことが大切です。

更には、それを言葉で伝えることで、自分の心が美しくなり、運命そのものも明るく開かれていきます。感謝する心が幸運を呼び込むのです。

在宅医療

リレーエッセー

12

生涯医療の一翼としての在宅医療

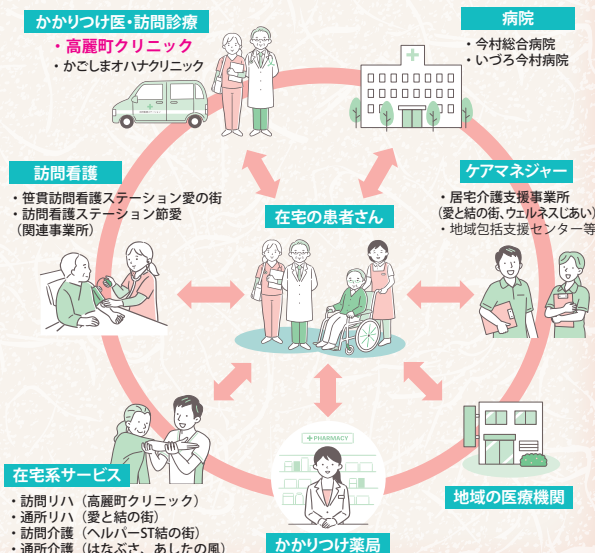
高麗町クリニック 院長 木原 浩一



人は生涯に渡り医療を必要とします。幼児期・成長期の病気に始まり、中年期からは生活習慣病や悪性腫瘍の割合も増加します。若年性認知症も加わり、老年期になると認知症やロコモ／フレイルが増加します。これら要因により、全世代で通院困難を抱えた患者さんが存在します。外来には緊急対応を要する患者さんも来院されますので、これらが相俟って院内渋滞が発生し、患者さん・御家族および医療者側の双方にストレスが生じます。

これらの患者さん達を在宅医療でケアすると、外来に余裕が生まれます。仕事を休んだ御家族は自宅で待つことが可能となり、リモートワークも出来るでしょう。もちろん、在宅医療での検査や治療には病院と比べて限界があります。しかし、病棟・外来主治医と在宅医療担当医が患者情報と治療方針を相談し共有することで、普段の在宅診療と病院での検査・治療をシームレスに進められます。カンファレンスの場を設けるだけでなく、全スタッフの人事を含めた交流を促進することで、外来と入院の一貫性を持った診療が促進されます。

慈愛会には、それを可能にする組織体制や人材が存在します。在宅医療を外来の一翼として拡張することで、病院の外来診療負担を減らしながら外来患者総数を担保できます。それにより、検査や入院のwaiting listを充実させることが出来ます。それは地域医療の充実に繋がり、慈愛会に求められることではないでしょうか。



第4回 慈愛会学会学術集会

2024年
7月27日
開催

学術集会テーマ

「Jiaikai2040—いまこそ未来へつなぐ創造力を—」

大会長 常盤 光弘

公益財団法人慈愛会 今村総合病院 院長

2024年は慈愛会創設90周年ということもあり10年後に迎える100周年、さらにその先、高齢者人口がピークに達し労働者不足の深刻化、社会保障制度崩壊の危機に直面するといわれる2040年を見据えて慈愛会はどのように変貌していくのか、また変貌していくべきなのかを皆で考えてみる機会になればと思います。今回の学術集会テーマを決めました。今回の学術集会では皆様の頭の中に未来予想図を描けるような企画を考えてみたいと思います。

一般演題の募集に関しましてはより多くの施設の、より多くの職種の方々から多種多様な応募をいただけることを期待しております。現在の慈愛会をより深く理解し将来への展望も視野に入れることにより、職員の皆さんに慈愛会へのエンゲージメントを高めていただけるように学術集会を運営したいと思っています。学術集会を盛り上げるには多くの演題と関連なディスカッションが欠かせません。ご協力を何卒よろしくお願い致します。

演 題 募 集

登録期間 2024.2.29 まで

演題登録基準（抜粋）

◆登録資格

演題発表者（筆頭研究者）および共同研究者は、公益財団法人慈愛会の職員に限る。ただし、運営委員会が特に認めた場合はこの限りではない。

◆発表内容

研究内容：症例報告・業務改善例など未発表の演題。カテゴリーは次の7つ。

- (1) 医療・福祉の質：専門医療 高齢者ケア チーム医療 感染管理 褥瘡対策 など
- (2) 地域医療：在宅医療 訪問看護 地域連携 など
- (3) 医療安全：安全対策 転倒転落 急変時の対応 インシデント分析 など
- (4) 医療経済：診療報酬、組織運営、病院経営、コスト管理 医療情報 など
- (5) 人材育成：職員の教育 キャリア開発ラダー スペシャリスト育成 など
- (6) 働き方改革：業務改善 組織体制 超過勤務対策 QC 活動 など
- (7) その他：医療マネジメントに関すること

◆演題登録

①抄録原稿（1,000字以内）②演題登録 申込用紙③発表者の「利益相反自己申告書」を、学会運営委員会にメールで提出。E-mail：jgakai@jiaikai.jp
慈愛会学会共有フォルダ[]内の各様式および要項を参照のこと。

◆採否及び発表形式の通知

所属施設を通じ、連絡する。

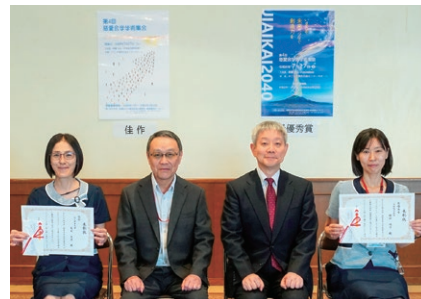
◆慈愛会学会雑誌への掲載

学術集会発表後、選出された演題の原著論文を「かごしま慈愛会ジャーナル」に掲載する。

問い合わせ先 慈愛会学会運営委員会 事務局（教育開発センター内）
内線2060 直通099-263-8151

ポスター最優秀作のご紹介 （表紙掲載）

今回のポスター募集には法人内から7作品の応募があり、最優秀賞に今村総合病院 広報室 植村 靖子事務員、佳作に法人事業本部看護部支援室 坂元 友美事務員の作品が選ばれました。10月30日の表彰式で、植村さんは作品について「過去に鹿児島市の寺山公園から撮影した桜島の写真を使用し、テーマである『未来へつなぐ創造力』をイメージして作成しました。ポスターをご活用いただき盛会になることを祈念しています」と話しました。



左から坂元さん、常盤大会長、今村理事長、植村さん

人 事 情 報

(省略)

法人事業本部 総務人事課より

投資教育動画シリーズ vol.5

確定拠出年金のご案内

今回はお忙しい皆さんにも確定拠出型年金について知っていただこうと、10分ほどの短い動画を作成しました。「確定拠出年金とは何?」「なぜ運用が大切な?」といった疑問を解決し商品選択・運用のコツをお伝えします。運用見直しの参考にぜひご覧ください。



運用商品の確認・変更はこちら

nrk ログイン

★ログインIDの再発行、確定拠出年金に関するお問い合わせはこちらへ
鹿児島銀行金融資産コンサルティング部（DC担当）
電話 099-223-6665（平日9～17時）

編 集 後 記

2023年も残すところ、あと少しとなりました。

1年を振り返ってみると、終わらないウクライナの軍事侵攻や各地の大規模災害など暗い話題があった一方、コロナの5類移行による各種イベントの復活、かごしまでの国体開催など、コロナ禍を乗り越え、少しずつ対面で人と触れ合う機会が増え、賑やかさが戻ってきました。

個人的な出来事としては、8月に今村総合病院に入職し、新たなスタートを切りました。広報専属スタッフとしてまだまだ勉強することは多いですが、「病院のファンを増やす」というミッションのもと、情報を正しくわかりやすく発信し、地域と病院、院内のコミュニケーションが円滑になるようにサポートしていけたらと思っています。

2024年も広報の力で慈愛会を盛り上げていけるように頑張ります！

今村総合病院 広報室 植村 靖子

Professional

慈愛会報「プロフェッショナル」

2023年12月 Vol.33

発行：公益財団法人慈愛会

編集：Professional 編集委員会

事務局：慈愛会 企画部 経営企画室



公益財団法人 慈愛会
https://www.jiaikai.or.jp/



慈愛会
公式Facebook